

地方会誌のWEB化について

リハビリテーション科診療近畿地方会誌編集委員長
阿部 和夫

以前から懸案であったリハビリテーション科診療近畿地方会誌のデジタル化を今年度より開始します。デジタル化には様々な方法がありますが、最も経費がかからないメディカルオンライン(<http://www.meteo-intergate.com/>)への掲載から行うことにしました。メディカルオンラインへの掲載自体は無料ですし、近畿地方会に対して著作権料が払われます。ただし、メディカルオンラインとの契約を行っている個人/施設 しかウェブでは閲覧

できないという問題があり、この点を解決するために地方会ホームページでも論文電子ファイルの公開を行うことにしました。

地方会誌のデジタル化は、経費の削減、学会誌の公開、会員の利便、などのために行われますが、デジタルコンテンツへのアクセスについては利便性の点からさらなる改善が必要です。将来的には、リハビリテーション医学と同じくJ-STAGEへの掲載が望ましいと考えます。しかし、J-STAGEへの掲載のためには、BIB形式への変換を行うこと、発行回数を増やすこと、など新たな問題解決が必要となり人的/経済的な負担が増す可能性もあります。

より良い電子化について会員の皆様から、ご意見が有れば事務局へお願いをします。

新幹事の抱負 Part2

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

奥村 元昭 東大寺福祉療育病院 整形外科・リハビリテーション科



このたび近畿地方会の新幹事を拝命しました東大寺福祉療育病院の奥村元昭です。私は昭和57年に奈良県立医科大学を卒業し、整形外科学教室に入局しました。平成6年以降は肢体不自由児施設、東大寺整肢園に勤務しております。平成20年に重症心身障害児施設の併設に伴い、東大寺福祉療育病院と名称変更し院長として現在に到っています。当院では主に小児整形外科疾患の治療や、障害児者のリハビリテーションを担当しております。近年脳性麻痺のみならず、発達障害児に対するリハビリのニーズも高まり、ますますこの分野にかかわるリハ医の人材育成が重要課題と考えています。微力ながら近畿地方会の発展のためにお役に立てれば幸いに存じます。今後ともよろしく願い申し上げます。

堀川 博誠 奈良県立医科大学 リハビリテーション部



私は昭和57年大阪市立大学医学部医学科を卒業して、奈良県立医科大学附属病院神経内科でリハビリテーション、内科、神経内科の研修をしました。研修終了後、平成5年まで研究医あるいは専修医として神経内科教室に所属していました。この間、5年3ヶ月国立療養所西奈良病院と国立療養所兵庫中央病院で神経筋疾患や神経変性疾患の臨床と研究をしました。平成3年7月より僻地支援病院の奈良県立五條病院に赴任しました。南和地区の基幹病院として、脳血管障害や変性疾患などの神経疾患患者の急性期から慢性期まで幅広く内科的治療とリハビリテーションに関与しました。平成6年に専門医を取得しました。

平成16年4月から奈良県立医科大学附属病院リハビリテーション部の教員をしております。神経筋疾患の電気診断とA型ボツリヌス毒素による神経疾患の治療も私の重要な仕事です。大きな病院なので症例も多彩で日々自分自身の進化を実感しています。

今回、幹事にさせていただき、有り難うございました。日本リハビリテーション医学会や近畿地方会に貢献できるよう、日々精進に務めますので、よろしく願います。

矢倉 一 社会医療法人大道会森之宮病院 リハビリテーション科



このたびは近畿地方会の幹事に選出いただきありがとうございました。私は平成5年に富山医科薬科大学を卒業後、奈良県立医科大学神経内科学教室に入局しました。その後、奈良県総合リハビリテーションセンターで森本茂先生(現在、西大和リハビリテーション病院)にリハ医としての基礎を、ポバース記念病院では鈴木恒彦先生(現在、NTT東日本 東北病院)と宮井一郎先生に脳卒中リハビリテーション全般につきご指導いただきました。現在は、森之宮病院の回復期リハビリテーション病棟のリハ専任医として日常業務をこなしています。以前に脳卒中のチームアプローチの重要性について研究しましたが(Cerebrovascular Disease 2005)、その信念を支えに臨床に研究に、そして病棟スタッフと結成したソフトボールに励んでおります。また、大阪脳卒中医療連携ネットワークでは、急性期病院や回復期リハビリテーション病院の多くの医療スタッフの方と大阪市の脳卒中リハビリテーションを盛り上げようと微力ながらがんばっております。

今後は近畿地方会のさらなる発展に貢献できればと考えていますので、よろしく願いいたします。

隅谷 政 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部



この度は本会の幹事に就任させていただき誠に光栄です。生まれも育ちも大阪なのですが、産業医科大学卒業後は主に東海地方会に所属しておりました。平成20年度から近畿地方会へ所属させていただいております。近畿地方会は南北に広い地域を含んでいますので、リハビリテーション医療の普及している地域もあればそうでない地域も相当あって、両者の較差がかなり大きいのではないかと推測いたします。私は、リハビリテーションに理解の乏しい医療施設で患者さんたちのために日夜孤軍奮闘されている先生方のために少しでもお役に立ちたいと思っております。この5月には生涯教育研修会を大阪で開催させていただきました。今後も編集委員の一員として微力を尽くしたいと思っております。近畿地方会において熱意あるリハビリテーション医が数多く育成され、あらゆる地域のリハビリテーション医療水準が向上することを願っております。どうぞよろしく願いいたします。

鉄村 信治 奈良東病院 リハビリテーション科

このたび近畿地方会の新幹事に仲間入りさせていただきました奈良東病院の鉄村と言います。私は平成7年に大阪医科大学を卒業後、整形外科学教室へ入局しました。以後、各関連病院を回った後、約4年前より現在の職場で勤務しております。また、同時期より大阪医科大学のリハビリテーション科の方で研修をさせて頂いており、佐浦教授、田中先生の御厚意により、昨年度からは非常勤講師として学生教育の方も担当させて頂いております。現在は主に回復期リハ病棟で運動器疾患中心に診療を行っておりますが、当院は認知症を含めた重症患者が多く、日々悪戦苦闘しております。まだまだ若輩者でありリハ医としても経験不足ですが、このような機会をいただき、諸先生方からご指導いただけるチャンスであると大変よろこんでおります。また、近畿地方会の方では教育委員の担当となり、研修会の運営等につき仕事させて頂く事になりました。何か自分なりのアイデア等少しでも出せればと考えております。今後少しでもお役に立てる様がんばりたいと思いますので、ご指導よろしくお願い致します。

川上 寿一 滋賀県立成人病センター リハビリテーションセンター医療部リハビリテーション科

このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を務めさせて頂くことになりました。私は現在、滋賀県立成人病センターのリハビリテーション科に所属しております。当科は滋賀県立リハビリテーションセンターの医療機能を担うことから、病院の中央診療機能と県域のリハビリテーションセンター機能の双方を充実することを目標としています。現在、急性期の医療のリハビリテーションから、地域における関係機関などの協働活動などをふくめた社会参加を目標としたリハビリテーションや地域における啓発活動などに従事しています。

リハビリテーションを通して携わるべき事柄は、機能再建などの側面から、物理的、社会的、心理的その他多面にわたります。近年、回復期リハビリテーション病棟が増加しましたが、くらしに立脚したリハビリテーションの必要性はさらに充実することが求められています。そこでは、医科学、工学、社会学などに横断的包括的にかかわるリハビリテーション医学の役割は重要と思われれます。

健康と社会的な生活の構築に対する努力をご指導いただきながら継続して行いたいと考えております。どうかよろしく願いいたします。

小口 健 白浜はまゆう病院 リハビリテーションセンター

この度は幹事に選出して頂き有難うございます。大阪大学医学部附属病院リハビリテーション部で阿部和夫先生にご指導を頂いた後、2005年より白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院リハビリテーションセンターで、リハビリ医として診療業務に従事しております。当院では急性期・回復期・療養の各病棟、外来・訪問と幅広くリハビリを行っており、脳血管障害や整形疾患周術期、神経筋疾患等が主ですが、他にも地域の患者様のニーズにはできるだけ応えられるよう心がけております。高齢化が進む当地におきましてはリハビリの需要は多く、リハビリの果たす役割も大変大きいのですが、その供給や連携に関しましてはまだ十分とは言えません。地域リハビリ広域支援センターとしての活動を通じて等で少しずつでも体制を充実させていきたいと考えております。今回、広報委員に任命頂きました。リハビリの重要性の認識を高めていけるよう、広報委員としてのお仕事を通じ近畿地方会の発展に少しでもお役に立てればと存じております。どうぞ宜しくお願い致します。

**新専門医
に聞く**

平成23年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

河崎 敬 和歌山県立医科大学 リハビリテーション科

和歌山県立医大リハビリテーション科の河崎敬と申します。この度平成23年度専門医を取得させていただきました。和歌山県立医大は近畿の国立大学で唯一のリハビリテーション医学教室があり、田島教授をはじめ諸先輩方から御指導を受け、日々臨床・研究に邁進しています。現在日本の医療において過疎地・僻地の医師不足が問題であり、和歌山県でも本州最南端に位置する串本町、白浜、那智勝浦などの温泉地等、僻地への医療の提供が県立医科大学の医師に求められています。今後全国的にリハビリ医療への需要が増加する中、僻地への良質なリハビリ医療の提供も急務であり、その一助として新専門医として当教室の理念である患者様中心の医療、患者様を全人的に診るwhole bodyの精神を今後も継承していきたいと考えております。

菊地 克久 滋賀医科大学リハビリテーション科

整形外科で主にリウマチ関節外科を中心に活動し、平成20年からは回復期リハビリ病棟での仕事も兼ねておりました。又、今秋からは滋賀県の東近江医療圏へ地域医療再生の為に、大学の寄附講座の形で出向する事になりました。一部を除き、急性期から維持期までの地域ネットワークがまだ不十分で、自立に向けた専門家の関わりも少ない状況のようです。今回専門医に加えて頂き、整形の運動器リハビリのみならず、他分野のリハビリでも、①リハビリの普遍化、②チーム医療の実現、③機能分化・連携、④システム・ネットワーク化(組織化)、をそれぞれ積極的に推進できるような力になりたい、と考えています。